

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【報告書タイトル】

他を知り、自己を知る

【実践者】

氏名 赤坂 滯	学校名 青森県三沢市立岡三沢小学校
担当教科等 社会科・道徳・総合的な学習の時間	対象学年（人数） 6年2組（26名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和6年11月～令和7年2月（8時間）

【実践概要】

1. 単元(活動)名：世界と日本	
2. 単元目標 単元目標： ザンビアの人々の生活の様子を知り、日本の文化や習慣との違いや同じことを捉える活動を通して、世界の人々は多様であることや異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に世界の人々や身近な人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとする態度を養う。 関連する学習指導要領上の目標：第6学年の目標 社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。 (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切にしてい国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。	
3. 単元の評価規準	①知識及び技能 ザンビアの人々の生活の様子などについて知り、日本の文化や習慣との違いや同じこと、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解している。
	②思考力、判断力、表現力等 学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。
	③主体的に学習に取り組む態度 学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 社会科第6学年の「世界の中の日本」という単元に基づいて設定した。その中でも自分が体験したことや感じたことを伝えることでよりリアルさを感じさせたかったので、ザンビアのことを中心とした内容にした。授業者が訪れたことのある国であるため、知らない国であっても実際に存在するということが感じられやすいと考える。教科書では、世界の中で日本が担う役割について考えていくという流れである。わたしが考えた8時間では、違いや同じことがある世界と日本がどのように関わっていけばよいか考えることに重点を置いた。さらには、世界規模といった広いものだけではなく、身近な人に対しての関わり方も考えさせたい。このような理由から、「世界と日本」という単元を設定した。  【単元の意義】 教科書で取り上げられている国は、アメリカ合衆国、中華人民共和国、フランス、ブラジルの4ヶ国である。そこで、ザンビアというアフリカ大陸の国について学ぶことは、児童にとって貴重なものである。また、「固定観念」に気付く授業や、様々な立場からごみ問題を考える授業などを通して、児童は多様性について本当に多角的に考えることができる。 グローバル化が進む世の中で、今自分が置かれたコミュニティでの価値観だけにとらわれず、多様性にふれながらもっと広い世界で生きてほしい。また、この単元を学びながら、自分が知らなかった自分に出会ってほしい。これらの目指す姿にたどり着くために、意義のある単元になると考える。





	<p><b>【児童観】</b>          本校は、学区内に米軍基地があり、髪の色や肌の色、目の色、異なる言語を話す児童が在籍している。学級内にも、保護者がアメリカ、中国、韓国出身である児童がいる。校内だけではなく、校外における生活でも、習い事や買い物など様々な場面で外国の人と接する機会がある。また、三沢市ではアメリカンデーやハロウィンなどのイベントが開催され、日本以外の文化に親しむ場もある。</p> <p>このようなことから、児童は欧米や近隣諸国のことについては、知っていることが多い。また、見た目や文化といった目に見えている違いには気づきやすい。しかし、世界にはもっといろいろな国があることや、目には見えない考え方による違いも存在することを知っている児童は少ない。</p> <p><b>【教材観】</b>          ザンビアのことを取り入れながら、世界と日本、他者と自分について考えていく。ザンビアはザンビア、日本は日本、他人は他人、自分は自分というように関係のないことで片付けてしまわないよう、関連性をもたせた内容になっている。毎時間、学びをふり返ることで、考えを整理したり自分のこととして捉えたりすることで、自分を見つめ直していく。</p> <p><b>【指導観】</b>          児童の気づきや感じ方を大切に指導していく。ザンビアに行ったことのあるわたしと、行ったことのない児童で距離を生まないように、児童に寄り添った授業になるようにする。児童に気付いてほしいこと感じてほしいことについては、児童から引き出すために、こちらからの押しつけはしない。また、ザンビアでの学びが多かったが、教えたいことが多くなったり一方的に話したりしないことに気を付ける。</p>
--	---

5. 単元計画（全8時間）

時	『小单元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1	世界の国々に対するイメージや知っていることと知らないことを整理する活動を通して、世界には様々な国が多く存在することに気づき、遠く離れたアフリカについて興味をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示された写真の様子から、どこの国なのかを考える。</li> <li>知っている国をふせんに書き出し、世界地図に貼る。</li> <li>ふせんが貼られた世界地図から、どのような国を知っていてどのような国について知らないのかを考える。</li> <li>4月にとったアフリカのアンケートをもとにアフリカについてのイメージや知っていることを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふせん</li> <li>拡大した世界地図</li> <li>アンケート結果</li> </ul>
2	ザンビアで実際に撮影された写真や動画を見たり、ザンビアクイズに答えたりする活動を通して、ザンビアはどのような国なのかを知り、日本とは異なる国があることに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの国旗や位置、人口、面積などの情報を知る。</li> <li>ザンビアの都市部、農村、学校、食べ物、ごみ処理場の5つの観点で写真や動画を見る。</li> <li>ザンビアに関するクイズに答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの写真と動画</li> <li>クイズ</li> </ul>
3 本時	日本とザンビアの子供たちの生活の様子を分ける活動を通して、自分が固定観念をもっていたことに気付いたり、自分と同じことや異なることが世の中に存在することを理解したりし、多様性を受け入れようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習をふり返る。</li> <li>日本とザンビアの子供たちの生活の様子を分ける。</li> <li>なぜ間違えたのか話し合う。</li> <li>日本とザンビアを比較する。</li> <li>ザンビアの二人を比較する。</li> <li>ふり返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの写真</li> <li>3人の子の生活カード</li> </ul>

4	ザンビアで起きているごみ問題を解決するために必要なことは何かを様々な立場から考える活動を通して、世界や日本のごみ問題に関心をもち、自分の行動をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングを行う。</li> <li>・ごみ問題を解決するために必要なことをダイヤモンドランキングで考える。</li> <li>・グループで考えたことを全体で話し合う。</li> <li>・ふり返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングの台詞カード</li> <li>・主張を要約したカード</li> <li>・ダイヤモンドランキングのワークシート</li> </ul>
5	世界やザンビアの子供たちの夢を知る活動を通して、自分の夢と比較し、夢の実現に向けて大切なことは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の教科書に載っている世界の子供たちの夢を知る。</li> <li>・ザンビアの子供たちにインタビューしている動画を見る。</li> <li>・自分の夢と比較し、共通する願いについて考える。</li> <li>・夢の実現やこれからの生活に必要なことは何かを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の教科書</li> <li>・インタビュー動画</li> </ul>
6 ・ 7	日本の国際協力機関を調べたりザンビアで活動した人の話を聞いたりする活動を通して、世界で活躍する日本人がいることを知り、自分には何ができるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の国際協力を行っている機関や支援について調べる。</li> <li>・海外協力隊員としてザンビアで活動した人の話を聞く。</li> <li>・自分にできることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の教科書</li> <li>・ゲストティーチャー</li> </ul>
8	これまでの学習をふり返る活動を通して、世界や身近な人々と共に生きていくために大切なことを考え、表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習で分かったことや印象に残ったことを全体で話し合う。</li> <li>・グループでウェビングマップを作成する。</li> <li>・自分の考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙</li> </ul>

6. 本時の展開（3時間目）			
本時のねらい： 日本とザンビアの子供たちの生活の様子を分ける活動を通して、自分が固定観念をもっていたことに気付いたり、自分と同じことや異なることが世の中に存在することを理解したりし、多様性を受け入れようとする態度を養う。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<b>導入</b> (5分)	1 これまでの学習をふり返る。 ・ザンビアについて知ったことで、印象に残っていることは何ですか。	・日本と異なることについての意見をあえて大げさに取り上げる。	・ザンビアの写真
<b>展開</b> (35分)	2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">ザンビアの子供たちはどのような生活を送っているかな？</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の子供たちはどのように過ごしていますか。</li> <li>・ザンビアの子供たちはどのような生活をしていると思いますか。</li> </ul>	・自分なりの予想をもたせる。	

<p>まとめ (5分)</p>	<p>3 日本とザンビアの子供たちの生活の様子が書かれたカードを分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分け方の説明をする。</li> </ul> <p>4 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違っただカードは何ですか。それは、どうしてですか。(間違っていなかった場合は、悩んだカードは何ですか。)</li> </ul>   <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とザンビア、ザンビアの二人を比較してみましょう。</li> </ul>   <p>5 ふり返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習を通して感じたことや考えたことを書きましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠をもって分けるようにさせる。</li> <li>・間違っただ決めつけがあったことに気付かせる。</li> <li>・「固定観念」や「偏見」という言葉が出ない時は、似た言葉や考えを広げていく。</li> <li>・違っただだけではなく、同じことがあることにも気付かせる。</li> <li>・日本とザンビアだけではなく、身近でも多様性にあふれていることを確認する。</li> <li>・今後、身近な人に対してどのように関わっていけばよいかも考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループに 3人×9枚 計27枚のカード</li> </ul>
---------------------	---	--	--

## 7. 本時の振り返り

6学年全クラスに対して授業を行ったが、4クラスそれぞれで反応が違っただ。「固定観念」に気付かせるのに容易な場合とそうではない場合があっただ。わたしの問いかけ一つで、もっていきたい方向に行くかどうかが決まることを強く感じただ。「レヌカの学び」という開発教材があっただも、授業者の言葉次第で、気付かせたいことや学ばせたいことにどのように結びつくかが大きく変わっただ。発問の言葉を大事にしなければならないことを学んだ。また、もし「固定観念」という言葉を知らないがゆえに引き出すことができなかつただとしても、それに代わる言葉を児童が発した時に、反応できるようアンテナを張っておくことと、どのような言葉が出るのか予想をしておくことの必要性もあると感じただ。ちなみに、わたしの学級では「～っぽさ」という言葉が出た。「ザンビアっぽさ」「日本っぽさ」という男児の言葉から「固定観念」に繋げようとした。自分の中に「固定観念」があっただことに気付くことができたとしても、それは時として自分を窮屈にさせてしまうということに掘り下げるところまではいかなかつただ。今後、また授業をする機会があれば、どうしてそのように思っただのか切り返したり、「固定観念」があっただことに対してどのように思うのか尋ねたりしてみたい。

「固定観念」に気付かせるだけではなく、身近な多様性についての理解に繋げるのは果たしてふさわしいのか疑問でもある。目指す児童の姿に合わせた教材の選択や授業の流れは難しいと感じた。すでにある教材でも、児童の実態に合わせた指導になるよう、また単なる真似ではなく、自分の授業にできるよう、改善しながら深めていきたい。

#### 8. 学習方法及び外部との連携

単元の7時間目にゲストティーチャーとして、今回の教師海外研修にアドバイザーとして同行してくださった山形県九里学園高等学校の鈴木精先生に来ていただく予定である。鈴木先生は、2007年から2年間、ザンビアにおいて現職参加で青年海外協力隊として活動していた。当時どのような活動をしていたのか、実際に経験していたからこそわかることや感じたことを話していただく。海外で活躍した人に会う機会がめったにない児童にとって、目の前で話を聞けることは、より大きな教育効果が得られると期待している。また、16年経って再びザンビアを訪れた鈴木先生にしか伝えられない話も多くあるはずである。ザンビアの変化についても児童は知ることができ、視野を広げることができるのではないかと考える。

#### 9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

校内では、放課後の校内研修の時間を使い、教員に対して、ザンビアでの経験や学び、実践した授業、国際理解教育についての手法を伝えた。その際、現地にいる時に作成した「学びの地図」を用いて、自分が感じた「hospitality」「dream」「culture」「money」「education」の観点で話をした。その国の文化や価値観などに適したものが受け入れられる持続可能な社会づくりということについて共感した教員もいて、そのようになるためにはどのようにしたらよいか、研修が終了した後まで議論が続いた。また、ザンビアのことをきっかけに、自国の日本や世界についてまで考えが至った。

校外では、普段開かれている学習会に参加する近隣の小学校教員に対して、校内で話したことと同じようなことを伝えた。あまり馴染みのないアフリカのことや国際理解教育のための学びの方法が豊富であることに興味をもっていた。

### 【自己評価】

#### 10. 苦労した点

ザンビアに滞在した期間はわずか一週間ほどであり、ザンビアの全てを知ったわけではないわたしが、ザンビアを語ってもよいのかということに不安を感じた。ザンビアについて知っている人はほとんどいなく、わたしの発信する情報がその人にとってのザンビアの印象を左右することになる。誤った情報を伝えないように気を付けた。

また、事実と感じたことを区別するようにした。教師海外研修に参加する際、自分の思いや感じたことを大切にしようと思っていた。その感じ方は人それぞれである。わたしが教えることで、感じることは人によって異なるので、それを大切にしたいという思いがあった。そのため、感じたことを強要してはならないと思っていた。それが、教えたこと・教えなければならないことと混同しそうになり、どこまでを伝えるべきか迷った。教えるべきことと大切にしたい思い、この二つの兼ね合いをどうすればいいのかが難しかった。



13. 学びの軌跡  
(児童生徒の反  
応・変化、感想文、  
作文、ノートなど)

4 時間目まで終え  
てのふり返り

世界について考えたり自分事として考えたりしている児童の感想文

私は今まで、まずい国だと思っている人は、心がかういとおも  
んでいたけれど、ザンビアを通して、まずしても、心があかるく、  
元気にすしていることがわかりました。

ザンビアの子供は、家の手伝いで学校にいけな、いけるけれど、幸せ  
なのは、暇がないので、へん見や個定かん急て人をみないよにしたいです

アメリカの方は、白人ばかりのイメージがあったけれど、そい  
うイメージじゃなく、色々な人にとって、よしあわせ  
なことだと思、い、ました。  
せ、には、自分の知らない国や文化があること  
が、よくわかりました。

私は世界が多種多様だと思いました。最初は韓国日本  
しかあまり頭になかったけれど、世界は広いのも、たいがい  
いなと思います。広い世界だと、人もその分たくさんいる  
ので、外国人の友達もたくさんつくってみたいですね。  
文化も国ごとにいろいろあるのでも、興味がありました。

私は今まで、アフリカや中東地域は戦争・紛争が多いと思、て、いたけれど  
でも先生のザンビアの話も聞いて、いろいろ問題はあるけれど、戦争をしてない  
ので、そこまで多くないことがわかりました。そして最初、知っている国をふるとは、た  
びにいろいろ有名なものが多くておもしろいと思、いました。世界にはいろいろ  
問題があることも分かって、それをどうか解決していくかを探、りたいです。

私はザンビアや世界のことについて学び、ザンビアでは、  
ごみをその辺に捨てること外、当たり前だと知、ってびっくりしました。  
ザンビアでは、ゆうふくなく、くらしをしているを、している人や、社、会、学、校、外、  
も、行、け、ず、一、日、中、家、の、た、め、に、働、い、て、い、る、人、が、い、る、と、知、って、差、外、す、  
いなと思、いました。ザンビアに、外、ま、ら、ず、世、界、の、国、々、で、も、こ、の、よ、う  
なく、く、ら、し、を、し、て、い、る、人、が、い、る、の、か、な、と、思、い、ま、し、た。

世界には、日本を、ま、く、め、て、さ、ま、ま、な、社、会、問、題、が、あ、り、ザ  
ンビアでは、ごみ問題などの衛生における問題もあ、り、て、日本と  
く、ら、し、が、社、会、問、題、に、対、し、て、意、識、を、も、と、高、め、て、ま、し、( )、な、と、思、い、  
ま、し、た。そのために、ごみ拾、い、の、ポ、ス、ター、を、貼、る、  
な、ど、の、こ、と、を、し、て、環、境、を、良、く、社、会、問、題、を、減、ら、し、た、( )、な、と、  
思、い、ま、す。

まだ違いにだけ着目したり偏った見方をしたりしている児童の感想文

私は、この勉強を通して、外国と日本は、ま、た、く、ち、が、う、な、こ、と  
に、ま、ち、あ、り、ま、し、た。前は、外国も日本と、同、い、よ、う、な、生、活、を、し、  
て、い、る、の、か、な、と、思、い、た、け、れ、ど、ま、た、く、ち、が、う、な、生、活、を、  
し、て、い、た、( )、服、も、似、た、よ、う、な、服、を、ま、て、い、る、か、と、思、い、  
た、け、れ、ど、国、ご、と、に、よ、っ、て、い、る、( )、か、違、う、の、か、で、し、り、ま、  
し、た。

最初はどの国も同、い、よ、う、な、生、活、を、し、て、い、る、と、思、い、た、け、れ、ど、文、化、や、食、べ、物、を、し、て、  
暮、ら、し、て、い、る、か、ま、ち、が、う、な、こ、と、が、あ、り、ま、し、た。私は、世界と、く、ら、び、て、み、て、  
日本は、せ、い、つ、で、豊、か、な、国、だ、な、と、思、い、ま、し、た。私は、知、る、国、を、ま、か、す、機、会、で、  
私は、近、く、の、国、か、な、せ、な、か、た、り、と、文、化、は、い、ろ、ろ、な、国、に、つ、い、て、知、り、て、す、こ、い、い、と、思、い、  
ま、し、た。私は、ザンビアは、貧、しい、国、だ、と、知、り、た、け、れ、ど、貧、しい、国、は、世、界、で、ど、こ、に、あ、  
る、の、か、が、気、に、な、り、ま、し、た。

私は、今まで、たくさんの国があるけど、少ししか国名が知りませんでした。アフリカの方は、たくさんの国があってすべてが豊かな国だと思ったけど、貧しい国もあることを初めて知りました。アメリカやカナダ、イギリスもたくさんな町などがあるけど、豊かな国が貧しくなったり、貧しいところがさらに貧しくなったりするかもしれないことを考えました。

14. 授業者による自由記述

今回、教師海外研修に参加してみて、海外にいる時だけが研修ということではないことを改めて感じた。応募する時から、授業実践や学校内外での取り組みが必要なことは知っていたが、それらを実際に行ってみて、国際理解・開発教育の一步を踏み出したと感ずることができた。これまで、開発教育を行ったことがなかったわたしにとって、ザンビアで過ごした時間だけではなく、事前研修、事後研修、授業実践、他教員への報告など全ての時間が有意義なものとなった。

特に、ザンビアで一緒に過ごした仲間と指導案検討や実践報告をしたことが楽しかった。なぜなら、同じものを見たり聞いたりしてきたわたしたちが、児童や生徒に伝えたいことは異なっていたからである。それぞれの人の物事への感じ方や考え方を知ることができ、そこにおもしろさを感じた。たとえ伝えたいことが同じでも、そのアプローチの仕方は様々であったのも興味深かった。アドバイスも多くもらったので、自分一人では思いつかなかった考えもあり、視野を広げることもできた。

また、校内の教員に対して実践報告をした後、数人の先生たちがその場に残り、共に議論を交わしたことが嬉しかった。明確な答えを出せないことについて、様々な意見を出し合った。普段、関わっている時には分からない先生たちの考えにふれることができた。

以上のことから、わたしは人の考え方を知ることが好きであることに気付かされた。児童に対して、多様性を理解しそれらを受け入れる、その中で自己を見つめ直してほしいという思いから、テーマを「他を知り、自己を知る」にした。しかし、わたし自身も今まで知らなかった自分に出会うことができた。もしかしたら、わたしが一番、他の人を知り自分を知ることができたかもしれない。

ザンビアに行き、今まで知らなかった現実を見て、一筋縄ではいかない問題が存在することを知った。そのため、自分の無力さを痛感し、帰国後、わたしには何ができるのだろう、できることがあるのだろうか悩んだ。しかし、児童や先生方、友人にザンビアで経験したことや感じたことを伝え、誰しもが興味をもち、訪れたことのないザンビアに思いをはせていた。そして、ザンビアだけではなく世界全体までについて考える人もいた。わたしは世界を大きく変えたり、海外で即戦力になるようなことができたりはしない。だが、誰かに世界について考えるきっかけを与えることはできると感じた。それは、とてもささいなことである。しかしながら、このような微力なことにも意味があり、次から次へと影響していき、いずれ大きな力になると信じている。今回の研修で終わりにせず、今後も国際理解・開発教育に携わっていきたい。

### ミルドレッド（15歳）の生活

朝5時には起きて1時間かけて水くみをし、その後は家族のために朝食を作り、洗濯をする。休日は部落でほうきを作って売っている。たまに教会にも行く。	都心の中心からバスで20分くらいのコンパウンドに住んでいる。道路や電線が未整備で、家も無秩序に建てられている。	家の近くで強盗や殺人が起きているのが不安。毎日家事や兄弟の面倒のため、自分の時間が無いのも悩み。
お小遣いは月に200円。たまに簡単な仕事をしてお金が入るけど家に入れていない。	隣のコンパウンドにあるコミュニティスクールに歩いて通っている。好きな科目は英語と算数。	お父さんと兄と妹が亡くなって、今は祖母の家に妹、弟と暮らしている。お母さんは他のところで仕事をしている。
友達はたくさん。いつも一緒に買い物に行ったり遊んだりしている。ヘアアレンジが得意でよく友達の髪をアレンジしてあげる。	仲のいい男の子はいて楽しく遊んだりするけど彼氏はいない。それよりも女の子の友達というほうが楽しい。	将来は医者になって病気の人を助けたい。

### カウ ندا（17歳）の生活

朝6時に起きて掃除をし、食堂で朝食をとる。休日は欠かさず教会へ通い、チャーチサービスを楽しむ。熱心なクリスチャン。	学校の敷地内にある寮に住んでいる。部屋は2人部屋。部屋は狭いけどルームメイトとはとても仲良くやっている。	最近生物の先生がいなくなり、授業がなくなったのが不満。もう少し勉強したいけど学校でよく停電が起きるので夜勉強できないのが悩み。
お小遣いは月に3000円。日曜日に友達とご飯を食べたりするのに使っている。あとは文房具に使うことが多い。	全寮制の公立学校に通っている。長期休みの時だけ家に帰ることが出来る。好きな科目は英語と化学。	お父さんは官僚で省庁に勤めている。お母さんは公立の小学校の先生。兄は都心の銀行で働いている。
放課後は友人と教室に残って勉強している。詩を書くことも好きでよく書いている。たまにグラウンドでネットボールをするのも好き。	好きな人はいるけどつきあってはいない。好きな人は学校のリーダーで真面目。教会と一緒に歌ったりするのが幸せ。	将来はジャーナリストになって世界中を飛び回りながら面白い記事を書きたい。

### かな（17歳）の生活

朝はぎりぎりまで寝ていて朝食をとる余裕がない。休日はほとんど部活があって学校に行っている。部活帰りの買い食いが幸せ。	街の中心部から離れた新興住宅街に住んでいる。まだ家が建ち始めたばかりなので、付近には田んぼや畑が多く見られる。	国際協力の仕事に就きたいが、親は大反対。本当は私立の大学に行きたいけど国立じゃないとだめと言われるのも悩み。
お小遣いは月に5000円。カラオケやライブなどに使っている。その他文房具とか参考書とかはその都度必要に応じて買ってもらえる。	街の中心部に近い公立の学校に自転車通っている。好きな科目は国際理解と英語。	お父さんは地元の会社に勤めていて、お母さんは看護師として病院で働いている。兄が首都の大学に通っている。
放課後は部活三昧。クラスの友達とも仲がよくて、オフの時には一緒に遊ぶ。たまに近くの図書館で友人と一緒に勉強もしている。	彼氏とは別れたばかり。彼はもうしばらくいらぬ。それよりも今は部活と勉強に燃えたい。	将来は英語を使った仕事に就きたい。できれば国際協力の分野で働き、途上国で自分の力を発揮したい。